# 助け合って生活するために



地震などにより災害が起こった場合，多くの人が公民館や学校などの避難所で生活をしなければならないときがあります。避難所の生活はふだんの生活とどのようにちがうのでしょうか。

考えてみよう

東日本大震災では，約３２万人が避難所で生活をしなければならなくなりました。避難所の生活とふだんの生活とのちがいについて考えてみましょう。

▲避難所に集まった人々

▲食事を受け取る人々

▲避難所となった学校の１日の流れ

## 忘れてはいけない日

少しすると，とても高い大きい津波が来るというので校舎の２階に家族やほかのひなんしてきた人たちと行きました。どうなるんだろうと，心配で心配でしかたがありませんでした。

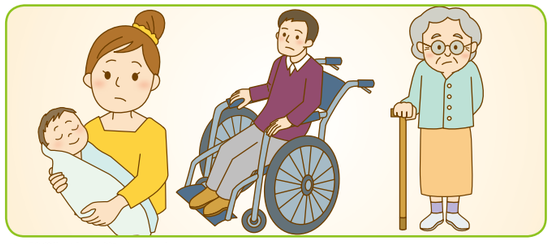
次の日の朝，外を見ると，いつも遊んでいた公園や道路は，大人のこしくらいまで水が上がっていてびっくりしました。

ひなん所では，食べる物がなく，家から持って来たおせんべいを１まいだけ食べました。おなかがすいて，大声で泣いている子どももいました。外にも出られなくて大変なことが起きたんだと思いました。

何日かたって，救援物資が届くようになりました。給食係を決めたり室長も決めました。それに，トイレそうじ当番も決めて，トイレの水も流れないので，プールの水をバケツにくんでトイレに流したりしました。（作文宮城 60 号　特別編『あの日の子どもたち』より）

話し合ってみよう

避難所には多くの人が集まってきます。避難所で生活をしなければならなくなった場合，わたしたちはどのようなことに気をつける必要があるのか話し合ってみましょう。



▲避難所に集まる人々

▲決められた生活ルール

たくさんの人が共同生活をするためには，いろいろなルールや役わりを決めなければなりません。

避難所などでおたがいに助け合って生活するためには，地いきのつながりが大切だね。

そのためには，日ごろから近所の人へのあいさつやまちの行事へ参加することなどが大切だね。